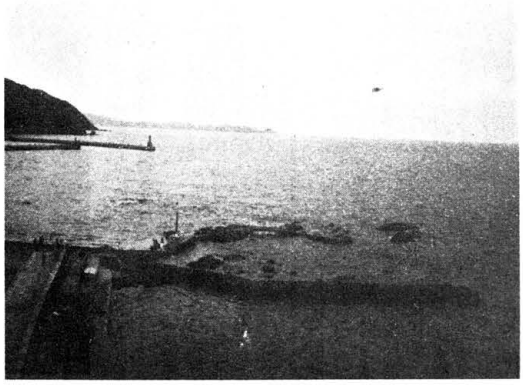
宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像
福岡県宗像郡玄海町
電話 0940(5)1311代
定価 一年送料共 1000円

神郡の初夏



神湊より望む筑前大島の遠景

〝近づく夏越の祭り〟
大祓式＝古儀に則り
罪・穢を祓う
―七月三十一日午后五時斎行―

「みなづきのなごしの祓する人は千歳の命のぶといふなり」

当大社恒例の大祓式並びに夏越の祭が来る七月三十一日夕刻五時より、本殿前楼門に作られた真新しい大茅の輪をくぐりながら斎行される。

この神事は奈良時代より千数百年も続いている最も古く伝統あるまつりである。

昔は年の区切りを二回にわけて、六月（季夏）十二月（季冬）の両度に大祓が行われ、六月の大祓を特に夏越の祓と称した。

このまつりには、皇室を始め全国民が二の祓に参加して、罪・穢を祓い、邪気を静め、夏の酷暑にもめげず清々しい心と健康な身体で日常の成業に専心されるようにと祈るものである。

この古儀に則り、当大社でも夏越祓が斎行されますが、昔様方に先般配付しております赤白の「人形」これを撫物といって、自分の身替りになるものです。

この撫物＝人形＝に氏名を記し（男子＝白、女子＝赤）、息を吹きかけ、身体を撫で、自分自身が知らず知らずの内に犯した罪、穢をこの人形に託して神社に返送しお祓をうける神事が大祓式であります。当大社では、七月三十一日、午后五時、宮司以下神職巫女雇傭員はもとより、氏子崇敬者から一般参拝者も参列し楼門に作られた大茅輪をくぐりながら、一思うこと呟きねとて麻の葉を、切りに切りても祓ひつるかな」左廻り、「みなづきの夏越の祓ひする人は、千歳の命延ふといふなり」、右廻り、さらに、「宮川の清き流れにみそぎせば、祈れることの叶はぬはなし」と、左廻り古歌を斉唱しながら三度茅の輪をくぐります。

道彦による古歌の参唱もいつしか参列者一同の大斉唱となり、玄海洋上に落陽が傾く頃、やがて人形が祓清められ釣川に流されて、神事は終ります。

長い梅雨も七月中旬には明ける。この夏越神事が終れば神郡にも夏が来る。県保健所の海水調査でも、全域〝快適〟の診断を受けた、各海水浴場である。大島に、地ノ島に、鐘崎に、神湊に、勝浦に、人々は涼を求めて郡内海水浴場の人出は例年以上の人々で賑うであろう。

明日の健康と家内の安全、交通の安全を祈りながら、是非、大祓に参列されますようご案内申し上げます。

尚、筑前大島鎮座中津宮では、本宮の夏越祭にさきだち、六月三十日午后五時より、沖中両宮奉賛会役員他村長多数参列の下、厳かに斎行、全員で大祓詞を奏上、罪科を消除し、明日の健康と繁栄を祈念した。

論説
神道史回顧（一）
―王朝時代竜蛇の信仰―

一種の霊力を持つ動物と信じられていた王朝時代竜蛇に関する信仰説は、古く多くの神話伝説の中に活躍して重要な役割を成していたのである。

日本書紀に、豊玉姫が出産の時その身が変化して竜の本体を現わしたとあるのは、竜の名称の古典に見える最初であるが、外海の神話を扱っている際に、誤ってわが神話に混入したものであろう。後の竜宮の伝説などは、仏教思想の慈悲救済・因果応報の教義を受け入れたものと思われる。

仏教では、聖人覚者を竜にたとえているが、その根源は印度のアリアン種族の三類崇拝の信仰に発している。竜神信仰は、雨を祈る農耕の祭事に深い関係があった。蛇も霊力を持つ動物として崇拝する風潮が、早くからわが信仰思想に入り込み、祈雨の外に、悪事に対する祭り、財産を恵む霊力が信じられた。稲荷信仰に蛇の信仰が加わり、今日でも壬支（えと）に結んで「巳の日まいり」が行われているのは、その後者に属するのである。

動物信仰には、前述の如く竜蛇の神秘的霊力に対するもの以外に、狐狸の魔術的霊力が伝説にも多く見られる。特定の神社と結びつけて、その神使として崇拝される動物に、狐・烏・鳩・牛・馬・猪などがある。中でも、稲荷神社の狐、八幡宮の鳩、熊野神社の烏等それぞれ神使として歴民的な信仰様相を伝えてきた。

十干十二支をはじめ、星曜による年月日時の吉凶を定め、あるいは方位の吉凶を判じて、これが信仰行事に結びついているが、その根源は中国の道教、讖緯説、平安朝時代に特にその影響をうけて発達した陰陽道に基づくものである。ここに挙げたいのは、わが固有の神道には、干支の性格による年月日の吉凶などの思想は勿論、十干と併用する十二支の動物表現の思想は元来なくて、奈良朝以後のいわゆる俗信仰の発展によるものであろう。十二支のえと信仰は、動物の霊性尊重が迷信に走る。

就中、洞窟ほら穴羊狐猩妖怪の棲家と信じられると、神と狐を同一視してこれに赤鳥居が建ち赤飯油揚げの供物が列ぶ珍風景が描き出される。この場合狐はもう神使ではなくて、稲荷大明神に昇格し正一位の位階が献じられている。同じ動物との結びつきでも、正一位稲荷大明神に匹敵するものはない。

邪教淫祠の弊害が高じて、正常温和の心を傷つけ多くの悲惨事を生んだ事実は、王朝時代の文学的著作にもよく現われている。白河天皇の応徳三年（一〇八五年）に、検非違使に勅して淫祠を破毀させた記録が、当時の世相の一面を実証しているのである。

その最も極端に転落したものが、悪霊に祈る「のろい」とされる。伊勢物語に「罪もなき人をうけへば忘れ草おのが上にぞおふといふなる」との一首が見えるのも、人の不幸を祈念した邪悪の習俗が窺える。神社背後の森林に、呪い釘が藁人形に打ち込まれていたのが昨今まで見られたという。

八幡宮の神使の立場でなく鳩は平和のシンボルとして、多くの行事に放鳥の一こまを演じているが、わが国の古風習にはない。欧米人のキリスト教信仰から派生した行事と思えるが、鳩は温和な平和象徴の鳥であろうか。

筆者は福岡市の舞鶴城内にある国立病院に、入院したことがある。退屈しのぎに窓外の手に毎朝飛んでくる鳩を観察する。同室の患者が餌を与えると、争ってついばむ。ところがビッコの一羽とそのライバルは、毎日ひどい争いを続け、時には二羽共いついたず手摺から落ちる。落ちても敵視の行動は解消しない。この鳩が平和の天使とは頷けない。魔性まる出しの鬼鳥としか思えなかった。

八事亜べて天道の如く妙なり、風雷雪雨は探め期し難し」と、幕末の福井藩主松平春嶽が自詠の詩の一節に人生観を述べている。勤王、夷の潮流天下を風靡した幕末に、徳川一族の大名として難局に生きる苦脳を七言絶句に開陳したのである。避け得ぬ宿命、多くの家臣を持ち幕政に協調すべき立場に在っては、詩歌に感懐を托する外ない●正義観を貫いて万民の不幸を防ごうとする真実味は、いつの時世でも苦しい。そうした大士の心情には、「巧言令色鮮し仁」の背信も嘘偽も潜んでいない。尊い美しと称りたい処世に、その真実味を直指したい●宇宙界に地球が誕生したのは、四十六億年前と専門書にある。地球に動植物が発生し人類が出現したのは数百万年とすれば、歴史的計算に二万年は長いものだが、地球の寿命から見れば実に短い。何万年前まで記録も文字もない。何十世紀の計数しか人類の歴史は必要としていない●史上の原始時代は、人類社会は正直者ばかりの集団生活であっただろう、社会が漸次複雑化して遂に人類に背信が芽生え、嘘偽が何かの目的のために隠されるようになった。人間の不徳不幸ここに始まる●人間が神や悪魔を創造し、宗教的信仰に生活の根底を必要とするようになったのは、正直者ばかりの集団生活が崩れたからである。人類は被服食糧を鳥獣から採取するようになって、詐術に工夫を凝らし脳の効果を増大することに努力した。その欺瞞の手は同類の人間関係に於いても、効果を挙げるための努力が始まった。これを平和的に解決するために神の創造が必要であったのである●神前に嘘偽を嫌い集団の平和を懇祈して何万年を経たか知れない。その懇祈の専門家が、神道の巫女、仏教の僧侶、基督教の使徒を活動させて何千年か。記録以前の歴史は書かれなかった。

（白雲）

神具、装束
結婚式場用品
九州店
本社
株式会社 井筒
福岡市博多区東公園一丁三一（〒八二三）
電話福岡（〇九二）六五一―九四五六番
京都市下京区油小路六条北入（〒六〇〇）
電話京都（〇七五）三四一―三四一代）～四番
電話京都（〇七五）三六一―二三四・六〇六番

暑中御見舞申し上げます

出光興産株式会社福岡支店
支店長　松山嘉三
福岡市中央区大名2丁目8番26号

出光

出光興産株式会社門司支店
支店長　糸永文雄
北九州市門司区錦町3番7号

全容を現わした神宝館

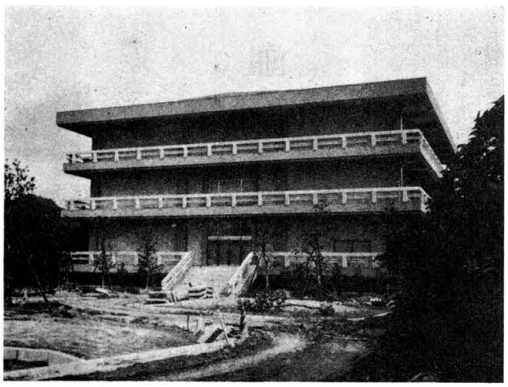
――十一月八日開館を期して進む庭園工事――

かねてより建設中の当大社神宝館は、このほど本体工事を完了した。去る五十三年十月二十七日に起工式を執り行い、ひいて五十四年七月二日上棟祭を斎行したが、その後工事は順調に進捗し一年九ケ月で建物の完成をみた。

建物は鉄筋コンクリート造り三階建高床式、高さ十六・二米、延床面積約二千平方米（約七百坪）の規模で、現宝物館と渡廊下で結ばれている。

構造上の特色として文化財の保護保存に重点がおかれ、直射日光や湿気などの外気の影響を防ぎ、また防犯の見地から壁面には殆んど窓が無く、壁内には二重三重に断熱材を使用している。屋根もコンクリートの屋上に鉄骨を組んでその上に鉄板を張り、空間を設けることにより出来得るだけ太陽の輻射熱を遮えぎるようにした。また館内は常時一定の湿度（五五～六五パーセント）を保つため自動的に作動する除湿機を取り付け、管理人室には館内外の温度と湿度及び除湿機の作動状況を二十四時間記録する制御板が設置されている。

防犯の面からも各階にテレビカメラを装置して管理人室から常時監視を行い、異変の場合は警報装置が作動して社務所に直結し、直ちにこれに対処出来るように警備体制がとられている。防災の面から火災報知器その他最新の施設が配備され、災害に対して万全を期している。



文化財の収蔵展示の面では、三階の一画約百五十平方米の保存庫内は壁面、床面は総杉板張りで、乾湿に応じて伸縮する天然木材の固定の壁付展示ケースは神宝館にふさわしく、外装は木目鮮やかな天然杉板で仕上げている。内部は荘張り。照明については観賞に適した照度を得るため、電球の数、位置、光度等について細心の工夫をこらし、更に照度コントロールを設置して展示品の変更の場合も適宜照度の調節が出来るようになっている。また全館の照明は管理人室からも一括して点滅操作が可能で、不要の場合の省エネを図っている。

可動の置展示ケースは約五十個設置の予定であるが、展示品の最良の保存効果をあげるため、神宝館設計担当の伊藤要太郎建築設計事務所（東京）に於て、目下、従来の置ケースとは異った独自のケースを開発研究中であり、過去一年有余に亘る実験データーは極めて良好で、近々完成の上搬入される予定である。

また玄関ホール左壁面には長尺物整理用機械が設置され大型品の展示も一能である。更に展示品の館内移動の安全を図ってエレベーターを設置した。

壁面はクロス張り、床面は参観者による振動をケース内の展示品に与えないよう各階共厚いじゅうたんを敷きつめ、そのグレーの色彩は館内とよくマッチして落着いた雰囲気を醸している。

着工以来、工事担当の清水建設株式会社、大神孝夫工事長以下、スタッフの方達は誠心誠意工事に従事し、最高の技術を駆使して美事に完成していただいた。現在境内県道沿いにその壮麗な姿を現わし参拝者の耳目を集めている。

本体工事の完了を待って目下神宝館周辺の造園工事が内山緑地建設株式会社の手により着々と進められている。御影石の門扉、ベンチの設置をはじめ建物に調和した植栽園が行われ、日一日と装いを新たにしている。

これら工事の進捗と相挨って、館内の展示についても担当者が協議を重ね着々と準備を進めている。多彩に亘る厖大な数の文化財を、参観者に如何に興味深く分り易く展示するかについての工夫がこらされているが、その期待にそうべく熱心な討議が行われている。

建物は、より一層の乾燥を期して更にこの夏の猶予期間を置き、来る十一月八日落成式を行う予定で、神宝館の公開、開館が待望されている。

昭和五十四年度決算審議
責任役員会開催

昭和五十四年度の決算並びに、本年度運営方針を中心として、当社責任役員会議が去る六月十八日午前十時より当社会議室に於いて開催された。

当社の責任役員は代表役員（宮司）他九名の役員によって構成されているが今回会議では麻生太賀吉、立石昇、両役員は諸般の都合により欠席され、委任状代理人出席で議事が進められた。

出席役員は、代表役員　葦津宮司、出光佐三代理久門敬、吉本弘次、中村清之、河野幸人、小畑初雄、占部貫太郎の各氏と宇都宮権宮司の各役員であった。

会議は宇都宮権宮司の開会宣言によって始められた。

先ず宮司より開会の挨拶、神社職員の同席について各役員の承認を受け、審議が行われた。

審議に先立ち河野役員より監査の結果報告が各役員になされ審議は、社務本局から海洋分局、文化財事務局の順で決算の審議が進められた。

各役員にはあらかじめ先に決算書が送付され検討して頂いていた関係上審議の進行は早かった。

各役員からは今後の見通しとして、世界の状勢も益々厳しく、特に石油危機の問題は吾が国にとって大変なことである。神社の歳出についても特に厳しくする様にとの意見があった。

この後社務報告として、葦津宮司より現在建設中の神宝館も近く完成するが、開館落成の神事を十一月八日に決定している旨の報告がなされた。

又来年は当社遷座大祭の十周年にあたり、これについても何か記念行事を考えている由報告があった。

最後に当社の宗教活動として崇敬会を組織したいと思う。これは宇都宮権宮司を中心として本格的に力を入れて活動していきたい、と報告をして役員会を終了した。

――◇――

宗像大社崇敬会設立委員会
設立委員長　宇都宮権宮司
〃　石橋権祢宜
〃　太田権祢宜
〃　堤　権祢宜
以上四名

「おばあちゃん自殺しないで」

わが国ばかりでなく世界的に人心の荒廃不安は増大して、このままでは一九八〇年代は危機頻発の暗黒時代となりかねない。一国や一ブロックの施策協調だけで解決する問題でもなく、世界的規模の大変更が要求される。然し、現在地球上には、それを指導推進する国家も民族も存在しない。みな渦の中の一員である。

小にしては放火控取からひったくりまで、わが国内の報道だけでも連日うんざりさせられる。漫画本の外は活字本に親しもうとしない青少年もテレビのニュースなど見逃さない。福岡市内で九十二才の老婆が街頭で、自転車の若い男に手提をひったくられた。中に引出したばかりの現金と通帳がはいっている。このニュースは特に世情の注目を集め、同情救援の声が巷に満ちる観があった。

独り暮らしの老婆は戦死した長男の遺族年金でやっとの生活を支える。温い救援の送金の続いた。変った手紙では「おばあさん自殺しないで下さい」との少年の便りが届き、テレビで知る人々の心を揺ったに違いない。自殺しないで下さいの小学生の願いは、神仏のみ心にも通ずる至純至高のものだから、自殺しないでの悲しい願いは、わが家では、先日孫の幼稚園に招かれて参観した老婆が、園内で卒倒吐血、救急車で病院へ運ばれる騒動が起った。孫の腕白は自分が祖母を大変にした責任者とでも思ってか、見舞看護に行く家族に必ず同行した。どんな遊びをやっていてもやめた。

ベットに横たわり、食べ物を禁じられて痩せた口もきけない老妻に「おばあちゃん、自殺しないで」と神妙な声を吐いたと、母である嫁が帰宅後報告している。

幼児には幼児なりの不安痛心があるらしい。自分の責任と思う位だから、自殺しないでの悲しい願いは、家庭でも学生生徒の自制に任せて干渉を避ける。それが教師父母との対話を少くし、指導や矯正の時宜を失わせる。自由の履き違いから自儘勝手に逸脱し、暴走する。集団的に無責任の行動を呼ぶ。万引窃盗傷害は、昔に比べると統計数字の飛上りが目立つ。

夫婦共稼ぎが鍵ッ子を作る。家庭を守り子女の育成に当るべき主婦が、パートの賃金欲しさに毎日の外勤は面白からぬことの第一と指摘する経済人の声を聞く。

日本青少年研究所は、日本及び各国の社会政治情勢を反映する国際児童調査を一九七九年に実施した。対象は日米英比等の小学生計約七千人である。調査は遊び勉強環境など幅広く、戦争や自殺観も加えた。

遊び時間は、日米英が長く二時間以上が日本五〇パーセント、テレビの視聴時間もこの順に長い。先進国はどこもテレビ熱が強い。従って勉強家事手伝いは後進国児童より低い。自由の名の下に甘やかし過ぎの感じても異様、死なない自殺は驚き入る。

住宅事情がよいとも言えぬのに、専用子供部屋を持つ割合は、日本が最高で、設備がよい程遊びが長くて勉強はしない。

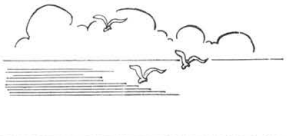
「自国がいつか戦争すると思うか」の質問にイランの児童六四パーセントが「すると思う」と答え、日本などと比べ遥かに高い。自国の内乱、隣国との摩擦が続くと生命所を失う。

「おばあちゃん、自殺しないで」と、病床の祖母を案ずる幼児の話が、偽装自殺の実行に飛んでしまった。女子大学で講義を始める前に、この話に触れておいたが、国文科三年生はどう受け取ったであろう。

残筆しがらみ草紙 (42)

玄陽隠士

暑中御見舞申し上げます



自由ケ丘支店
支店長　花田寅二郎
宗像町自由ケ丘二丁目七―六
TEL（〇九四〇三）③五一五一

日の里支店
支店長　瀧口浩明
宗像町日の里一丁目六―一〇四
TEL（〇九四〇三）⑥二八八一

西日本相互銀行

福間支店
支店長　石松鷹威
福間町大和町二七三三
TEL（〇九四〇四）②一二三一

宗像支店
支店長　花田義和
宗像町東郷九二六―一
TEL（〇九四〇三）⑥二〇一七

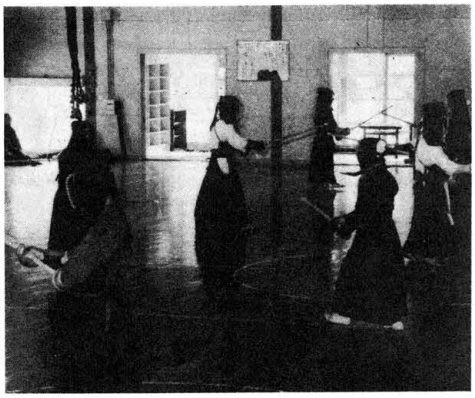
福岡銀行

福間支店
支店長　島本健二
福間町二七二六―五
TEL（〇九四〇四）②一二四六

福岡相互銀行
日の里支店
支店長　河野宣彦
宗像町日の里一丁目二九―八
TEL（〇九四〇三）⑥六七六七

暑さを斬る

―県神職剣道同好会夏季練習―



去る六月十一日、筑紫郡太宰府一小学校体育館に於て、神職剣道同一好会の夏季練習が行われた。この同好会は、昭和五十四年七月十三日に結成された県内神職による剣道同好会で、以後毎月一回の練習を行っているもので、剣道を通じて身心の鍛錬と親睦を深めるを目的とし、又各地域練習により地元民との敬神和人の道を進めることを願っている。

結成一ケ年を迎えたこの同好会は、志賀海神社、阿曇宮司（七段教師）を中心に、住吉神社、横田宮司、宗像大社、宇都宮権宮司（五段）、斎藤権祢宜（六段）を師として、約二〇名の会員が在籍している。

初回合同練習を昨年七月十三日に福岡市武道館に開催しより、毎月一回の練習を行い、出張練習も、志賀ノ島、住吉、宗像、太宰府と各地で行い又、その地の各高段者の先生方の指導を受けるとともに少年剣友会等との交りを持つ事が出来た。

今回の太宰府に於ても、筑紫剣友会の「振武会」の協力を得、上田沢美先生（七段教師）、加野正剛先生（五段）を始め、安藤、大鶴さんお二人の女流剣士も参加され、安藤さんは太宰府天満宮の巫女さんであり、大鶴さんは振武会員一同常にもましてハッスルした。

練習終了後、天満宮の御好意により、境内菖蒲園に於て直会の一席をいただき、見ごろの菖蒲に、剣の勝負を忘れた。この様な神職だけの剣道同好会も全国的にめずらしい会である。竹刀を竹刀に持ちかえて説き説かれる神ながらの道も一つの意義深き道であろう。この会をさらに大きく、県大会に、九州地区大会に、神職による全国の大会が開催される事に夢たくしながら月一回の練習はあるが全力している。神職各員の御入会をお待ちしている。

現会員次の通り（順不例）

阿曇宮司、横田宮司、宇都宮権宮司、斎藤、松大路、阿曇、平木、種子田、安元、多田、外山、波多野、代田、国分、松永、八坂、安藤、峰、高津、江副、東、渡辺、大野の各諸氏。

海水浴シーズン来る

―神湊海開き祭―

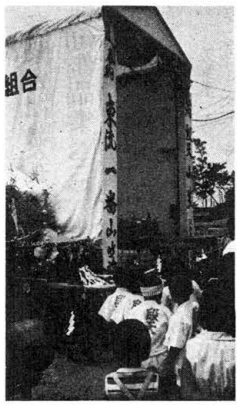
七月一日、午前十一時、神湊観光協会主催による神湊海開き、並びにタイ供養の祭典が執り行なわれた。

当日は、梅雨の真只中にあり、海開きにしては少々気のどく天候ではあったが、約百人の関係者の参列のもと、玄海旅館の海を一望できる一室に、祭壇が設けられ、厳しゅくかつ盛大に、執り行われた。その後、神湊の浜辺において、関係者の手によって直径の真タイが放流され、「今夏も事故なく、商売繁盛を……。」との願いをこめて、今後の神湊観光協会の繁栄を祈った。

この海開きは毎年、七月上旬に行われ、恒一の行事となっており、タイ供養は前年より執り行なわれており、且頃料理され、食卓にお目見えするタイもこの日ばかりは、喜びの日であったことであろう。

神湊地区には、十七軒の割ぽう旅館と、十三軒の海の家があり、毎年夏になると、大せいの海水浴客でにぎわう。昨年の夏は、約三万人の客でにぎわったそうであるが、今年はそれ以上の観客をと、関係者も心待ちにしているそうである。

「もう夏も、そこまで近づいています」海水浴のあと、新鮮な海の幸で一杯というのはいかがでしょうか。



走る山笠飛ぶ力水

六月二十九日神湊段天区、上中区のそれぞれの山笠清祓いの祭典が執り行なわれた。

"当日は梅雨の真只中にもかかわらず、晴間もちらほら、段天区では大人達にまじって、ハッピに鉢巻姿の子供が嬉しそうに、午後三時大鼓の音の響く中、エーサーソレバサーソーエーサーソ、エーの掛け声を合図に先づ、大人山笠が威勢よくかつがれ、それについて子供山笠も負けじと元気よく走り出し、神湊の町中を練り歩いた。

尚神湊の山笠の歴史は博多山笠の流れをくみ明治時代より今日まで受け継がれ、戦後は五キロの道のりの中、当社に参拝した時期もあった様であるが、道路事情によりり中止されて久しい。盛夏はそこまで来ている。

玄海町盆栽部会剪定奉仕

六月一日、日曜日に玄海町盆栽部会の剪定奉仕が行なわれた。

これは毎年、当社の樹木の樹形を整えるために、枝を切っているもので、当日は晴天に恵まれ、石松会長外多数参加のもと行なわれた。

午前八時からの奉仕は、まず祈願殿前から始まり、強い日差しのもと除々に刈りとられ、次第に形がそろってきた。緑の樹木の中に赤のつつじが顔をのぞかせ、色どりを添えた。日曜日と重なった為、祈願殿前駐車場は車が多く、参拝者で賑わっていた。

日頃の腕を披露しての"刈り込み"はさすがに見事で、参拝者に一層の清々しさを与えることになりそうである。

午後三時頃、一段落したところで、奉仕者全員斎館に集合し、お茶を飲みながら、秋の盆栽展また来年の剪定のことなど話し合い奉仕を終了した。

「宗像辰美氏（元宮司）逝去」さる

＝享年八十歳＝

六月二十七日午後零時半、宗像辰美＝元宗像大社宮司＝氏が心筋硬そくのため死去された。八十才

辰美翁は、昭和三十一年十二月十六日、前佐伯宮司のあと宮司代務者として就任され、三十二年四月の清宮貴子内親王の御参拝に、同年八月の沖ノ島第二次第一回学術調査、並出土祭祀品重要文化財認定等の大役に努力された。

昭和三十四年一月、この宮司職を退職されるまでの三ケ年、当社責任者として尽力された。

又、氏の長男である清文氏は当社の祢宜、祭儀部長として神明に奉仕されている。

宗像辰美翁のごめいふくをお祈り申し上げます。

第三回 宗像大社歌会詠草

毎月一日〆切　詠草到着順

宮田　片山　一
九十と云へとも吾は尚健し畑を耕して唐辛植える

福間　広渡一寿軒
若葉萌ゆ山又山の原始林果なき秘境五家の荘のたび

曲　天野トモヱ
山の岸上り下りしても来て来し海は甘く山の匂ひす

武丸　原田まつ代
梅雨降りの夕空の日霽間より青める視野の植田照せり

福間　二宮　未子
郡老の開講式に出席見れば若をしのぐ若あふれる

相模原　早川　フサ
さまざまの小鳥の鳴き交いきりなる相模の野に老い日綴る

箱崎　吉村　三郎
雛ヶ子の咲きたる路地の華やぎて道行く人のしばし佇ち見る

原町　八波　五月
医は仁と貧しく逝きし父の忘日古き象牙の聴心器一つ

武丸　立石　昇
病室の窓辺に近く野鳥二羽たわむれながらまた飛び去りて行く

鐘崎　村田　四郎
落ち陽さし影のびたれど帰り来ぬ夫まつ船場の風は冷めたし

名古屋　野崎　傳三
置く露に朝の月影宿しつつ花あやめ咲く三輪の神池

吉留　高山　信子
おとなしく乳しぼらるる乳牛に向を訴ふるふきひとみは

日の里　清原　紹代
朝の日に光るビニールハウス内いちごは赤く育ちておらむ

田熊　今村　重刀
添え竹にすがりんとするいんげんの風に吹かれてちゅうにゆれゐる

田久　立花　勇雄
つゆ曇る空遠くまでひびけよと蛙なくなりふる里の夜を

吉留　白木うめの
四分咲の紫うすき藤の花に蜂の触れるて房ゆれ止まず

津丸　藤田　肇
出揃ひし竹の若葉のさみどりに早苗田越えし白南風の吹く

池田　富永　臻
暮れかかる刈田に雪の残りゐて犬さむさむと畦道をゆく

津丸　松尾　豊
孫達の贈り上花束喜寿の妻抱きてカメラに面はゆげなる

深田　中野　節子
紫の淡く咲きたる桐の花傘かたむけ人の仰ぎてゆけり

八幡西　磯谷　緑雨
片言に語らゆ孫と公園の憩ふ木陰は風爽かなり

田態　鷲津かつ代
樹の下の薄暗がりにとどまりの花白く浮けり冷えびえとして

武丸　原田　リノ
昼ねして疲れとれたる身は軽く植えてしまれし苗子に水やる

田熊　吉田　直志
七人の吾子にまもられ安らぎの日をすごしつつ喜寿をむかへむ

香椎　桜井　ツ子
薪積みし車をわが押し夫が引き上りし坂の舗装されゐる

東郷　藤崎　辰子
僅かにも見えはじめたる明けゆかの潮の動きに眼を凝らす

田久　小方　実
田心姫祭ると海に禊して祢宜は沖の島に上りゆくとぞ

徳重　石松や寿子
我が祖の開基せしとう宝松院今は宗生寺（大穂）に記録あるのみ

津屋崎　内田　久美
冨士ケ嶺に斑雪流れて美しき車窓の朝をしばし楽しむ

田島　吉武　俊次
水分の地名か示す分れ水東西に流れて二郡潤す

津屋崎　谷口　礼子
老びの手に拾ひあつめる桜貝春のうしをは姿らじものを

田島　吉武　武雄
若き頃二重の橋に歩哨せし語りし父の面影恋ほし

東郷　田中　春子
膝の上に英豆の爪除きつつ昼のドラマの続き見てをり

田態　力丸　一郎
早苗田の水の面にきよき白かべの影おとしゐる新興団地

福間　山本　夏枝
咲き満つるこの白花たびし友近頃とみに飛翔してをり

武丸　立石ろせ乃
炭坑の盛んなりし日賑はひし無人の駅にひとり汽車待つ

暑中御見舞申し上げます

正金相互銀行
自由ケ丘支店
支店長　内迫敏晴
宗像町自由ケ丘五―九七五―一一
TEL（〇九四〇三）③三三二一

宗像農業協同組合
組合長　花田　隆
宗像町大字東郷六七―一
TEL（〇九四〇三）⑥四一一〇

宗像信用組合
理事長　髙橋信種
宗像町大字東郷九四四―一四
TEL（〇九四〇三）⑥二一一五二

遠賀信用金庫
宗像支店
支店長　占部稔
宗像町土穴
TEL（〇九四〇三）②三一〇四
福間支店
支店長　松井治
福間町津丸
TEL（〇九四〇四）②二一二三

宗像大社歌会 俳句作品集（三〇）

藤沢玄洋子
海開き八幡菩薩の大のぼり
久留米　入江　柳江
更衣へ若やぐ思ひに八十路かな
福間　広渡一耳軒
鳥賊釣りの灯の煽めきて夏の夜
名古屋　野崎　傳三
片谷ヘタ風誘ふ夏の雲
田熊　安部　ゆき
いささかの風もたえたり青蓮
八幡西　磯谷　緑雨
山百合や迷い入りたる渓の道
大井　木原　房子
梅漬けて一日厨の塩じめり
田熊　力丸　一郎
軸かえて文殊の涼夏めけり
大井　吉田　杏子
客去りて紫陽花又も静かなり
宗像　吉田　衿子
捻て苗の箱の形に枯れており

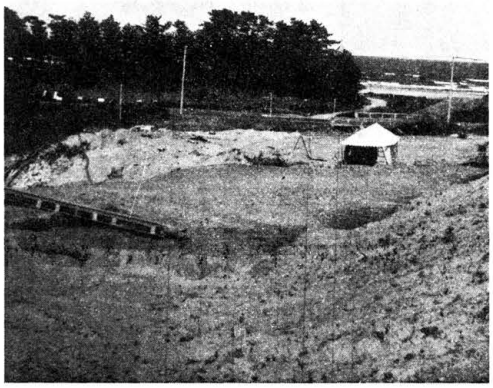
第二二八回 宗像大社 歌会詠草

宗像　中村　幸
納屋深く入り来て昼を呼める尾羽の長き小鳥やさしむ
福岡　林　まつえ
めしいにも尚春のありスカンポやあざみが群れ咲く岸辺の思い出
田島　楠　理
下刈をすれば真赤な孰れいちごさわれば落ちん風情に見ゆる
大井　吉田ますみ
新緑の影うつしつつ流れゆく染彦の渓水白き瀬となり

宗像郡考古学散歩 (2)

今川遺跡（津屋崎町宮司）その四

いしいただし



水源は宮地獄神社のある城山の麓から西流し、今川の丘陵付近で蛇行している。付近の松はこの数年の間に松クイで枯れてしまったが、古老たちは口をそろえて、「むかしはこの付近に人家もなく、うっそうと繁った松林で、一人で歩くのは、えすうございました」と語る。

ここには今川の土坊主伝説もあり、それを供養した碑が津屋崎側の樋の横に立っている。遺跡はそこから東へ約百メートルのところで、標高十メートルの小丘陵地にある。この今川の丘陵は、今川の蛇行によって、全体のほぼ半分がえぐられているようである。

覆っている砂は深いところで、三、四メートルあり、砂の下に赤褐色の粘土層となっている。

発掘を担当した県文化課の伊崎氏は、（註一）『今回の調査で検出した遺構は住居址とピット、V字溝などである。それに包含層として、夜臼・板付I式期のもとの須恵器・瓦器等がある。包含層の下層は夜臼・板付I式土器で、ここから有柔両翼銅鏃と有柔磨製石鏃二点、柱状块入片刃石斧等を出土した。有柔両翼銅鏃はまぼ折損し、残存長五・七センチ、身は鎬を有し両翼は腐蝕していた。

青銅器が日本に現れるのは、弥生時代前期末とされているので、ここでは夜臼・板付I式層より出土しており、弥生前期初頭に位置され、時期を特定できる最古の青銅とみなされ貴重な発見である。

V字溝はほぼ南北方向に堀られ溝は上端で幅二・八メートル、深さ約一・四メートルを測っている。本来は丘陵をとり囲む環溝であったと推察される』と述べている。なお玄界灘岸で夜臼式土器を出土する遺跡は、遠賀郡芦屋町夏井浜、宗像郡福間町香椎、粕屋郡古賀町馬部、新宮町高松子（註二）夜臼である。

もう一度、今川遺跡に立って見る。玄界灘がキラキラと輝き、海からの風がこち快い、目を閉じて、かすかな潮騒をききながら、いつしか二千数百年への世界に入っていた。

蕃の繁る今川の低湿地の猫のひたいほどに稲が植えられている。松や雑木に囲まれた中の、低平にされたところに、溝が丸く円形に掘られ、数戸の粗末な竪穴住居がたっていた。家のそばで、一人の男が低石で赤褐色のものを磨いていた。男が手を休めた時、ピカリと光った。みごとな銅鏃である。

「あの海のむこうから、もたらされたものじゃ」　髭面の煤けた顔が得意そうに笑った。

海の見える遺跡、ロマンと果しない夢が広がっていく。

註一、歴史と自然を守る会、五十五年二月号より。
註二、夜臼（ゆうす）式土器、縄文晩期、粕屋郡新宮町夜臼遺跡出土の土器を標式とする。カメ、ツボを主体とする。カメには凸帯のギザミメがある。
（次回は宮地獄大塚古墳）

写真説明
今川遺跡遠景

鬼編雑記帳

原稿の締切り日が近ずくと編集長の顔が次第に殺気だってくる。そんな或る日、おとなしいK君をつかまえて「なに！虫歯が痛へてしまえ」それから五分間ほどこんこんとお説教。編集長が立去ったあとK君憮然として「アカ、ゲンコウよりケンコウだ！」

◎和式が楽か洋式が楽かで論議している。下のお話し、Wの方である。「スッキリした気持になるのは和式だナ」T君、「楽な気持で用がたせるのは洋式だと」とS君、そこえ上司の一氏言く。「問題は事後処理だ、楽な洋式だが短足者は苦労するよ、事後別な処にシャガム必要がある」……これには一同ダー、当社にも和洋二種あるがどちらの利用者が多いかわ知らない。

鐘崎民俗誌 その二十四

楠本記

海女漁（あま）（その二）

海女船の船頭の話を聞きたいと思っていたところ、八尋新さん（明治三十五年生）が昭和の初め頃やっておられたということなので早速、話を聞きにいった。八尋さんは若い時から延縄漁を専門にしていたが四十才位の時、頼まれて海女舟の船頭をしたということである。

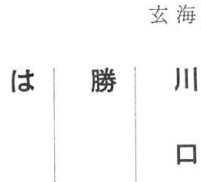
「鐘崎の海女には、ガタアマとオキアマがいました。オキアマはジョウアマとも呼びます。だいたい学校をでたてのオジョウモン（娘さん）がイキナライ（呼吸習いのことか?）に潜っていたのがガタアマといいます。年のころなら十五・六才で二ヒロから三ヒロほど潜っていました。ジョウアマは嫁さんにならんとなりませんでしたが、処女のジョウアマはいません。これは普通の人で八ヒロ、よう潜る人で十二ヒロから十三ヒロほど潜っていました。これを一艘の舟にガタアマなら五・六人、ジョウアマなら三人ほど乗せて漁にでます。

季節は弥陀さまの時分から盆までです。盆を過ぎると海水が冷とうなるので潜りはやめます。雪のばあさんは天保生れでしたが明治の初め頃は二月頃から海に入りよったそうです。子供が六人もおったので生活が苦しうて気張りよったのでしょう。海女が沖に行く時、先ずシュクアンさま（織幡神社）の裏の浜でコイツをかき、オシオイを貰いて舟に乗ります。エビスさまの前を通る時には、トウエビスと呼んでいました。漁場につくとオシオイを撒きオコシガネを海水につけて、墨事災難のがれ漁マンのいいことと言うて、オコシガネを額につけます。それから三つオコシガネでフナベリをたたき海に潜ります。初めに潜る時はどんなジョウアマでも一気に潜らず斜にゆっくり潜って耳を水圧に慣らします。耳をやられますとジョウアマはでけんので用心をしていました。一シオが一時間から一時間半くらいで朝のまー シオ半昼から二シオほど潜っていました。ガタアマはイソ桶から命綱をひいて潜っていましたが、ジョウアマは船頭が、助け竿と呼んでいました。先端に丸い白い玉のついた二・三間の竿を海の中にいれてやるとそれにつかまってあがって来ます。舟には火床（ひどこ）があって、ぼんぼん薪を燃やして身体をぬくめます。地島まわりの時は磯に木が何ぼでも落ちているので不自由はしませんでした。海女が舟に乗る時は上っぱりを着ていますが、漁場につくとイソジュバンに着がえイソベコをはいて、その上からハチコ縄を二重に巻いてその間にオコシガネを刀のごとさして潜ります。ハチコは縄の節目が八つあるところからそう呼んだと言われますが、なう時はそんな事は考えずにやっていました。イソカブリの真中に大と書いていますが、どういうわけか知りません。オコシガネはブリキ屋ー花田鹿吉さんが造っていました。これにも大と彫っていました。イソジュバンはテンジク木綿のがらのいったので作っていました。獲ったワビやサザエは一晩活かして売るかその日のうちに目方で売っていました。年よりがその中から大けなのを選って今の藤ノ屋の裏あたりでノシアワビを作っていました。鐘崎のノシアワビは有名で、初代の漁協組合長の権田栄吉さんの家には宮内大臣からもらった表彰状があります。漁場は殆は波津の沖から地ノ島まわりでしたが、角島や白島、カカラ島まで行っていた舟もありました。遠方まで出掛けていたのはじいさんたちの代までですが、彼らの時も仕事がなければ遠くまで行きました。

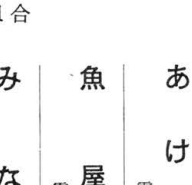
今はダッコチャン（ウエットスーツ）を着ますので楽ですが、昔はイソジュバン一枚で難儀をしたものです。イソジュバンは一寸でも目にあて風を通すとさらさらして気持がええと言っていました。

眼鏡は、昔は二つ眼鏡を使っていたそうですが戦ら頃は一つ眼鏡でした。

鐘崎のあまは全部が女で男は一人も潜りませんでした。多い時は海女が三千艘も四十艘もでていましたが、今ではあまをやっているのは本田リキエさんがたった一人になってしまいました。」



暑中御見舞申し上げます



玄海国定公園の中心……白砂青松の海水浴場……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

あけぼの荘　電話 玄海②二二六六番
魚屋旅館　電話 玄海②二一二二番
みなと荘　電話 玄海②二二五五番
玄海旅館　電話 玄海②〇〇〇一番
高嘉旅館　電話 玄海②一二二一番
千成旅館　電話 玄海②〇三〇〇番
望波亭　電話 玄海②一八一一番
千鳥荘　電話 玄海②〇〇六八番
大島屋旅館　電話 玄海②〇五五五番
喜楽旅館　電話 玄海②〇三三三番
松風荘　電話 玄海②〇一二〇番
友楽旅館　電話 玄海②〇二四四番
泉館旅館　電話 玄海②〇〇三五番
玄洋荘　電話 玄海②二一七二番
川口屋旅館　電話 玄海②〇〇四八番
勝浦荘　電話 玄海②二四七一番
はま荘　電話 玄海②〇五〇〇番